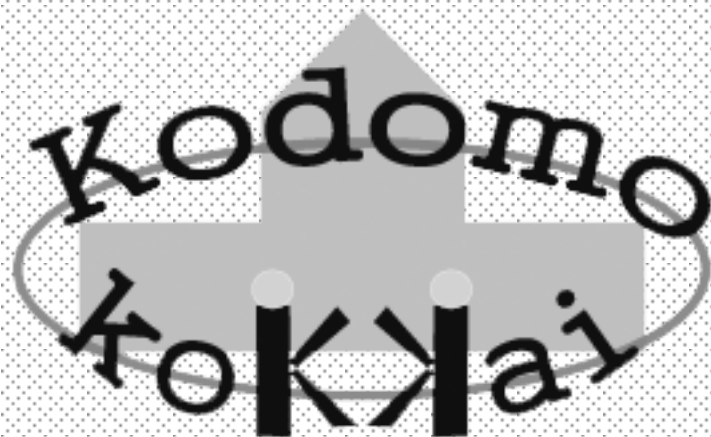
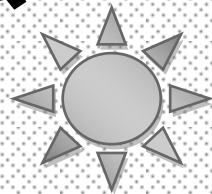
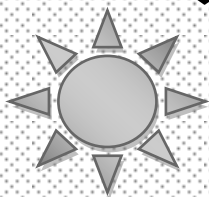


第7回子ども国会 宣言書



みんなが“豊か”に
生きていける未来の実現

平成22年8月19日
子ども議員一同

《はじめに》

私達は、「みんなが‘豊か’に生きていける未来の実現」のため、第7回子ども国会を開催しました。全国から集まった子ども達は、2日間、児童労働、教育格差、環境問題、経済格差、地域交流、子どもの権利の6つの分科会に分かれて話し合いました。

分科会は以下の通りです。

[児童労働]
[教育格差]
[環境問題]
[経済格差]
[地域交流]
[子どもの権利]

私達は、これらのテーマの現状や理想について子どもの視点から話し合い、改善案を考えました。改善案はより明確化する為、「自分たちにできること」と「大人にしてほしいこと」に分けて掲載しました。

《第7回子ども国会の目的》

世界では、紛争や貧困により苦しむ人々がたくさんいます。また、日本にも教育問題や環境問題、社会制度など、たくさんの課題があります。このような問題は、国会議員や官僚といった公務員を中心に大人によって議論されることが多いのが現実です。しかし、これらの問題に関係しているのは大人だけでしょうか？この世の中で生活している全ての人々に関係する問題であり、将来を担う私達子どもにとっても、大切な問題です。現在そして未来に対して真剣に考え意見を共有することによって、子どもも大人もともに成長し、みんなが‘豊か’に生きていける未来が実現すると考えます。そのためには、以下が重要だと思い、第7回子ども国会の目的と致しました。

1. とともに未来を気付く他者と出会い、対話することの重要性、意義を実感してもらうこと。
2. 国際社会及び日本国内における課題に関心を持ち、話しあう場を提供すること。
3. 中高生の声を社会に届けること。

児童労働 分科会

参加者名 近藤メリナ、志賀アリカ、西原菜月、矢野春佳

<社会>

① 現状

- ・私達はより安い商品を求めている
- ・気付かないうちに児童労働の加害者になっている
- ・私たちは児童労働の実情をしっかりと把握をしていない

③ 解決策

～大人達にしてほしいこと～

- ・日本の技術を供与し、効率のよい労働を提供する
- ・そのために開発者の権利を守る体制を整える

② 理想

- ・私達消費者が自らの利益だけにとらわれず世界に目を向け、共に助け合おうとする

～私達にできること～

- ・児童労働の実情をしっかりと把握することができるように努力する
- ・可能な限り、児童労働に関する情報収集をする

<企業>

①現状

- ・自社の利益を求めすぎて、児童労働に加担している
- ・大企業は下請け会社の労働環境まで把握していない

③ 解決策

～私達にできること～

- ・きちんと子どもの労働者の権利を守っている会社の商品を買う→マークを作成（政策提言書参照）

②理想

- ・100年後の世界・・・子どもの労働者がいなくなる
- ・10年後の世界・・・今働いている子どもの権利を守る

～大人達にしてほしいこと～

- ・働いている子が教育を受けられるように、工場と学校が融合した施設を建設する
- ・子どもが適切な環境で働ける工場の割合を増やす
- ・その工場の環境をチェックできる体制をつくる

<子ども>

①現状

- 教育が十分に受けられない
…日々の重労働で、教育を受ける機会がない。
将来の働ける職業に限りがある
- 兵隊・売春によって心のキズを受け、一生抱えてしまう
- 心と体の成長が、児童労働のせいで不十分
- 子どもたちは従順なため、洗脳されやすい
- 一方、親・家族の生計を助けているのも事実

③解決策

～わたしたちにできること～

- 子どもたちが教育を受けられるよう、発展途上国で子どもの教育を支援している NGO・NPO のことを知り、社会に伝える
- 児童労働に関与していない企業の商品を買う

②理想

- 教育を受けることができ、負の連鎖を止める
- 兵隊や売春に子どもが巻き込まれない
- 子どもの成長が十分できる
- 子どもの労働に頼らずとも、生活が成り立つ

～大人にしてもらいたいこと～

- 途上国の教育を支援する。(学校・金銭)
- 途上国の文化を生かした、産業への投資を促す
- 途上国への技術供与と、知的財産の保護のバランスをとる
- 子どもを働かせる場合、発達や体力に合わせた内容にする
- 戦争や売春をなくす！！
- 安心できる商品か、チェックできるようにする

<親>

①現状

- 児童労働の前に、貧困や教育環境の問題がある
…字が読めず、生活上の知識がない。また、悪い業者にだまされる
…伝統・宗教・性差別によって女性（母親）の教育が不十分⇒多産や栄養不足
- その結果、子どもを危険な仕事に送り出してしまう
- 多産が、口べらしやわずかな食料と引き換えに、子どもを送り出してしまう

②理想

- 貧困から脱出する
- 女性にも教育が提供される
- 安定した家族生活を送り、一人ひとりの子どもが大切にされる

③解決策

～大人にしてほしいこと～

- 途上国の教育を支援する
- 貧困を解決するために、努力する

☆子ども議員の提言

日本政府の方々へ

私たち先進国の人間は、知らないうちに児童労働の加害者となっています。

そして、私達は児童労働の実情をしっかりと把握できていません。

私たちは自らの利益にとらわれず、世界に目を向け、共に助け合おうとすべきです。

そのために日本の優れた技術を提供し、効率の良い労働を提供すべきであると私たちは考えます。

また、技術の開発者の知的財産権・著作権を守るための体制を整えることも同時に重要だと私たちは考えます。

そうすれば、効率の悪い児童労働はなくなるのではないのでしょうか。

もう一つ、ODAにおける軍事費の割合が減り、代わりに教育費が増えるようにチェックすることはできないのでしょうか。

児童労働の原因は、貧困・紛争などの負のスパイラルであると、私たちは考えました。

教育が不十分なことも、原因の一つであると思います。

それらを改善する手助けを日本がリーダーシップをとって、行うべきではないかと思うのです。

日本の企業の方々へ

大企業は下請け会社の労働環境まで把握できず、知らないうちに児童労働に加担している可能性があります。

子どもたちは教育を受け、きちんとした労働環境の中で働けることを保障されるべきではないのでしょうか。

そのためには、日本の企業の方々が、途上国において子どもが適切な環境で働ける工場の割合を増やし、その工場を環境をチェックできる体制をつくるべきであると私たちは考えます。

私たちは、子どもの労働者の権利を守っている会社の商品であることを示すマークを作りました。

そのマークを使って長期間のキャンペーンをはってはいただけないのでしょうか。

そうすれば、私たち消費者はそのマークのついた商品を買うことができます。

※本は教育を受けられていること

ハートは子どもたちの笑顔

WORKの文字は、働くことを意味します。



☆子ども議員の声

今回初めて子ども国会に参加して、貴重な経験をすることが出来ました。集まってきた仲間も小学生から高校生、そして大学生スタッフなどといった広い年齢層で、皆それぞれの分野で疑問や考えをもった人々でした。なのでとても刺激をうけたし、自分の考えを述べ、そして新しく考えをまとめなおすこともでき、本当に良かったと思います。今回の提言が、今後どんどん練り直されて、そして子どもの目線で発表するということが続けられれば、絶対に世の中は変わるはずです。この出会いを大切に、また新たな仲間と世の中に目を向けていきたいと思います。

(高校2年 志賀アリカ)

今回初めて子ども国会に参加させていただき、最初は緊張していましたが、同じ分科会の仲間とすぐに打ち解けられ、積極的に意見を交わし合うことができ、それにより、他の仲間の別の考えが聞けて、自分の考えをさらに深めることができました。

子ども議員として子ども国会に関われるのは今年が最後なのですが、今後もこのような活動に参加し、さまざまな人の様々な考えや価値観に触れ、自分の考え方や視野を広げていきたいです。

(高校3年 西原菜月)

児童労働は、自分にとって身近でない話題でしたが、同じ分科会の皆さんはとても知識が豊富で、一緒に議論をしたことで頭が良くなりました。もっともっと頭がよくなりたいので、来年も是非参加したいです。とりあえず充実した楽しい1日でした。ありがとうございました。

(高校2年 近藤メリナ)

初めての子ども国会で、とても緊張して、ガチガチだったけど、とても楽しく積極的に意見を述べることができました。来年は受験シーズンなので、来られるかどうか分からないけれど、機会があれば、行きたいと思っています！！

まだまだ勉強不足だったので、けっこう大変だったけど、来年はもっと勉強してくるつもりです。それではこれからもがんばります！！以上です。

(中学2年 矢野春佳)

教育格差 分科会

参加者名 大川瑛里 伊藤大輝 小林望海 林健太郎 會木千裕 古田雄一 高崎宗悦

<現実>

何が起きているの？ 何が問題なの？

- 1、親の収入や方針（教育に対する意識が高いかどうかなど）によって子どもの進路や将来に大きな影響を及ぼし得る
- 2、大学のブランドで、卒業後も就職において格差が続く
- 3、教師や学校によって授業における質の差が生じる

<理想>

どうあるべきなの？ どうなって欲しいの？

- 1、教育を受ける側の意志が（学校を選択する上で）、最大限に保障される。
- 2、大学のブランドを過度に重視し、それで門前払いするのではなく、あくまで評価の上での一要素として考える
- 3、最大限受けられる教育の質を向上させる

※教育の質 カリキュラムに基づいて教えなければならないことを、どれだけ生徒の興味を失わずに伝えることができるか

<改善策>

- 1、自分たちにできること
 - ・格差がある世界を認識した上で、子どもや後輩に伝え、より良い未来を目指す
 - ・興味がある人で集まって考えること
- 2、大人にして欲しいこと
 - a 大学生による補習、学習支援のシステムの充実（理想1に対応）
 - EX) 教員採用の際、プラスとなる
 - b 第三者（抜き打ちで大学教員が実施）教員の授業の評価、監査（理想2に対応）
 - c 保護者には子どもの意志を尊重し、子どもの未来に対して手助けをしてほしい

☆子ども議員の提言

文部科学省の皆様 へ

<政策提言>

改善策に基づいて…

a 大学生ボランティアについて

- インターネットを通じた申込を国立の団体が運営し管理する
- 大学側にはシステムの参加の承諾を打診
- 参加地域は都道府県別

b 第三者による「高校の授業の質」の評価、監査

- 評価すべき観点をチェックボックスにまとめその傾向と総数をグラフに表し判断する
- 基本的に抜き打ち監査

※評価する団体は国が独立機関を作る。または大学教員が評価
その場合は評価する大学教員は癒着を防ぐため無作為に選出
(任意の大学教員を本人の承諾の元、該当団体に所属させる)

<実施期間>

a…16～17年

b…15年

<期待される効果>

a 経済的な理由によって学校選択の幅が狭まることを防ぐ

b 客観的な評価を取り入れることによって教師、学校が己の欠点を知ることができるので最低限の教育の質の向上につながる

☆子ども議員の声

「教育格差」という大きな題材について真剣に話し合ったことがなかったので、今回子ども国会に参加することができて社会に対する視野が広がった気がします。

また機会があったら参加したいです。

高校二年 林健太郎

今回初めて子ども国会に出させていただいたのですがこういったものに参加しました。そして「教育格差」というこれから先の日本が抱えてゆくであろう大変重要な議題に参加させて頂いて本当に良かったです。

高校二年 伊藤大輝

質の高い話し合いをすることができ、貴重な経験になりました。

高校三年 小林望海

普段はできないことのような話し合いをすることができて楽しかったです。

とても有意義な体験ができました。

高校一年 大川瑛里

教育格差をめぐる問題は、なかなか複雑で捉えにくく、議論しづらい面もあったかと思うが、今回の話し合いを通していろいろ整理できたように思う。学びの多い有意義な時間でした！

ボランティア 古田雄一

次代を担うわかものたちが真剣に討議をしている様子を見てすごく明るい気分になりました。

ボランティア 高崎宗悦

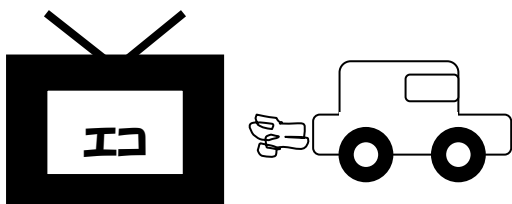
自分の考えたいことについて考えさせてもらった初めての分科会でした。本当にまともじゃなくて助けてもらってばかりだったけれどとても良い経験でした。自分でも驚くほど成長しました！

ファシリテーター 会木千裕

環境分科会

参加者名 副島智大 玉田玲奈 小木曾聖澄 海野沙弥佳 濱上祥北

<現実>



本当にエコなのか？
資源の無駄遣いなのではないか？

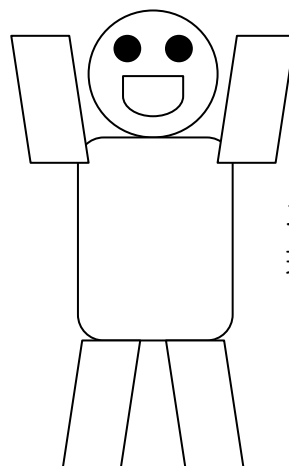
↓
ちがうはず・・・？

現在、地球温暖化、資源問題などの環境問題が私たちの生活をおびやかしている。これを解決するために企業や国がエコへの取り組みをしており、これは一種の流行と化している。

しかしながら、この流行にはいくつかの問題点がある。一つに情報のはんらんすることによって、本当にエコなことと、エコでない事を区別できなくなる。また、良いことをした気になり、ムダ遣いをしてしまうこともある。また、流行が廃れる危険性もはらんでいる。

<理想>

地球環境を持続させる！
生物多様性を保つ！
子孫に美しい地球を残す！



エコとは左記の理想を実現するための
“ツール”である

<改善策>

- ☆エコに対して個人個人で意見を持つ
- ☆そのための機会を設ける
- ☆エコが一般化されるようなシステムを作る

☆子ども議員の提言

国民のみなさまへ

エコを語れるようにしよう！

* 正しいエコとは何かー*

国会議員のみなさま

- ①私たちは、個人がエコについて深く考える機会が必要だと考え、できるかぎりの人へ**エコ研修**に行くことをすすめたいと思います。

エコ研修の方法として

- ⎧ 中学までの義務教育期間で、ある期間を設定し、研修へ行く
- ⎧ 修学旅行でエコを考えるプログラムを組み入れる
- ⎧ インターンシップのような形で大学生、もしくは社会人が研修へ行く

の3例を考えました。国民全員がエコを考える、知る機会は平等に必要です。そこで国にある程度費用を負担してもらい、たくさんの人が研修にいけるシステムをつくってほしいと考えました。これによって、自分のエコに対する意見がもて、行動できるようになると思います。

- ②2つ目に、個人だけでなく企業にも正しい意見に基づいた戦略が必要だと考えました。そこで、ある一定以上のエコ製品をだすために、国が**特定エコ製品**という規格を決め、国が決めた基準を満たした製品のみ“特定エコ製品マーク”を製品につけることができます。基準となるものは、

- ⎧ 1,仮想水
- ⎧ 2,製作時に消費する電力
- ⎧ 3,カーボンフットプリント

の3つを判断材料とし、製品にこれら3つの値を表示することを義務づけます。これによって、正しいエコが社会に広がり、持続可能な生物多様性がたもたれた地球が実現できると思われます。また、企業がエコ製品をつくるような環境をととのえ、消費者にもエコであるかどうかの判断基準を提供し、エコについて考えさせることができるようになると思います。

☆子ども議員の声

子ども国会には初参加にも関わらず、環境問題のファシリテーターをやらせて頂きました。全員が年上という環境の中で手探りながらも参加者の皆さんに助けられながらなんとかこなすことができました。新しい意見によって討論の流れが次々と変わっていくというのは非常に面白い体験でした。是非これ以後もこういう経験を積みたいです。

副島智大

初めての参加でうまく意見が言え、伝わるか、不安でしたが、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。日常、同学年ましてや他学年と真剣に討論する機会はなかなかなく、刺激的でした。

玉田玲奈

初めての参加で、今回実行委員として参加させてもらいまして環境問題の話し合いをしました。環境分野に知らない言語が出てきて不安でしたが自分の意見を言えたことで知らない意見を新しく発する事ができました。

小木曾聖澄

今回はじめて子ども国会の環境の分科会にて、実行委員として参加させていただきました。テーマ的内容的にたくさんの意見を上手に引き出すことが出来ずさらにまとめることがうまくできなかったのもので申し訳なかったです。

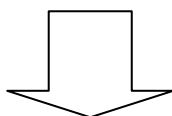
濱上祥北

経済格差 分科会

参加者名 馬場裕也、張ヶ谷未来、加藤聖大

解決すべき課題

日本の人口の4割が年収300万以下で『下流』と呼ばれる



1.1%（平成20年度）の割合で増えている＝経済格差は拡大中

これに歯止めをかけなくてはならない！！

理想

最低限度の保障があればある程度の格差はあってもよい。

☆子ども議員の提言

国会議員の皆さまへ

私たちが提言する政策

- * 『昇進・正規雇用のための奨学金制度』を国が策定する。
- * 『昇進・正規雇用のための試験』を国が会社に設けさせる。

その法案の対象

国から救われていない、年収300万以下で向上心のある人。
→従業員の平均年収300万円以下の企業

国が行うメリット

- * 国なら非営利で可能
→従業員は雪だるま式に借金が増える心配がない。
(=従業員の負担減)
- * 奨学金には返金義務がある。
→税金に痛手はない。
- * 企業力が向上するので国のGDPも上がる。

法案が施行されれば

低収入（低所得）の人が減少 ⇒ 経済格差是正

☆子ども議員の声

経済格差についての知識を深めることができとても有意義な二日間を過ごせた。その間に、熱意あふれる討論を交し、この集りは「国会」という名を冠するにふさわしいものであったと思った。

加藤 聖大

今回が子ども国会初参加となるが、事前からもの凄く期待を持って参加した。国会という、国民の代表という意味の言葉。2日間、その期待に沿う以上の素晴らしい時間を過ごせた。

馬場 裕也

「経済格差」という議題から生存権についても議論をし、さらには最貧困層を救うのでは私たちの考えは叶えられないという、概念の転換にまで進んだのはとても有意義な時間を過ごせた成果だと思った。

張ヶ谷 未来

地域交流 分科会

参加者名 高田美香、野田雅満、秦真理奈、清水美奈子、野口雄基

地域交流が無くなった理由

- ・プライバシーの侵害
- ・ネットワークの普及による買い物、情報収集の利便化
- ・通勤、通学等による、その地域で過ごす時間の減少
- ・徒歩による移動から交通機関の利用による移動への変化
- ・地域交流を実施できる場所・またはその機会の減少

地域交流が無いことによる問題点

・コミュニケーション能力の低下

地域交流の大切さを知らないことが、最近の新入社員にもみられるコミュニケーション能力の低下の原因であるといえる。会社のなかに限らず、社会で一生涯役立つ、「人付き合い」という能力が低下しているのだ。

・高齢者の孤独死

さらに、ひとり暮らしの高齢者に視野を広げると、話し相手のいない寂しさは募るばかりで、孤独死のような事態が起きていても、気付かれぬまま独りで死を迎えることになる。

・幼児、児童虐待

最近、話題になっている幼児・児童への虐待。これは近隣の住民の、異変に気付くタイミングが遅かったことによって起きてしまったことだ。もしお互いに知り合いだったならば、このようなことは起きない。

解決策

問題を解決するために即効性が高いと思われる2つの解決策を提案する。

①地域活性化パトロールプロジェクト

地域の住民と、その地域の高校生が力を合わせ、安全確認はもちろん、ペットボトルキャップの回収を行うことで、各家を訪問し、コミュニケーションをとること、孤独死・虐待の防止、早期発見をはかる。

②高齢者のための交通機関改革

交通機関をより広い範囲で、無駄なく利用可能にするために、地域行事のときには、バスの便を増やしたり、タクシー料金の値引きを政府の助成金とするなど、高齢者が、地域交流の場に参加しやすいような環境の改革を行う。

☆子ども議員の提言

市長 へ

高齢者のための交通機関改革を施行してほしい

①カーシェアリング

近所の人に、高齢者と一緒に出かけてもらう。

乗せてもらう側だけでなく、乗せる方にもメリットがあるように保育サービスや市の施設を優先的に利用できるクーポンを発行する。

②バス

行事やイベントに合わせて運行する。

また利用する場合には電話予約を入れてもらうことで効率よく地域を回れるようにする。

③タクシー

原則 65 歳以上および要介護者が地域で開催されるイベントのチケットなどを購入するときいっしょにタクシーの割引券を配布する。

④自転車

自分で行くことのできる距離でも安全に利用できるようガードレールの設置を進める。また整備されたところ分かるようにバリアフリーマップを利用する。

高齢者は学校や公民館などで行われる地域交流に参加したくても行けないことも多い。よって交通の便を良くすることで参加者が増える。

しかし、「行きたい」と思えるイベントがないという問題もある。

⇒私たち自身でアンケートを取り企画を立てることで魅力的なイベントを多く開催する。

⇒さらに参加者の増加が見込め、地域交流の輪が広がる。

この提案が実現したら制度を広めるため、ポスターを貼ったりボランティアスタッフとして活動するなど積極的に参加し、地域を盛りあげていきたい。

☆子ども議員の提言

文部科学省、教育委員会 へ

地域の人と一緒に地域活性化パトロールプロジェクトを施行してください

①域活性化パトロールプロジェクトとは？

- ・対象：高校生(相手の話を真面目に聞くことができるから)
- ・時間：下校時間(ミーティング 30分 施行 1時間×2)
- ・場所：学校付近及び住宅街
- ・形式：大人 4人・高校生 8人を1グループとし、パトロールするときは大人 1人・高校生 2人で回る。

地域の人と高校生と一緒に地域をパトロールする。ただし地域の安全確保だけではなく、会話による交流を中心にして多くの人と関わることを目的とする。そして近所の家を訪問し、コミュニケーションがとれる。ペットボトルのキャップを集めることにより、そのキャップは換金され、地域活性化のための貢献に役立つ。

②メリット

- ・高校生：社会貢献、学校外の情報を得る(仕事の知識、マナー)
- ・大人：社会貢献(知識の伝達)、若者たちとの交流
- ・社会：不審者・虐待などの発見(早期発見)、コミュニケーション能力の上昇

☆子ども議員の声

私は会話や文章をまとめることが苦手なので、今回初めての参加だったのでごく不安でした。でもグループの子が私の発言をサポートしてくれたり、とても気軽に意見が言えたり、大学生との討論では学ぶことが沢山ありました。「地域交流」は、私たちにとって身近でとても大切な内容だと思っています。この内容で真剣に話し合いができたことは自分にとって良い体験になったし、また自分が発言したことについて助言をもらえる喜びを知りました。

高田 美香 高2

私はいままであまり地域交流について考えたことはありませんでした。マンションに住んでいることもあり、近所とのかかわりがいいことが普通になっているからかもしれません。それだけに今回、みんなで話し合ったことすべてが新鮮で楽しかったです。宣言書をかいた時は自分の考えを文書にまとめることの難しさをすごく感じましたが、みんなのアドバイスでなんとか仕上げる事ができて本当によかったです。またいつか皆で討論したいです。

秦 真理奈 高2

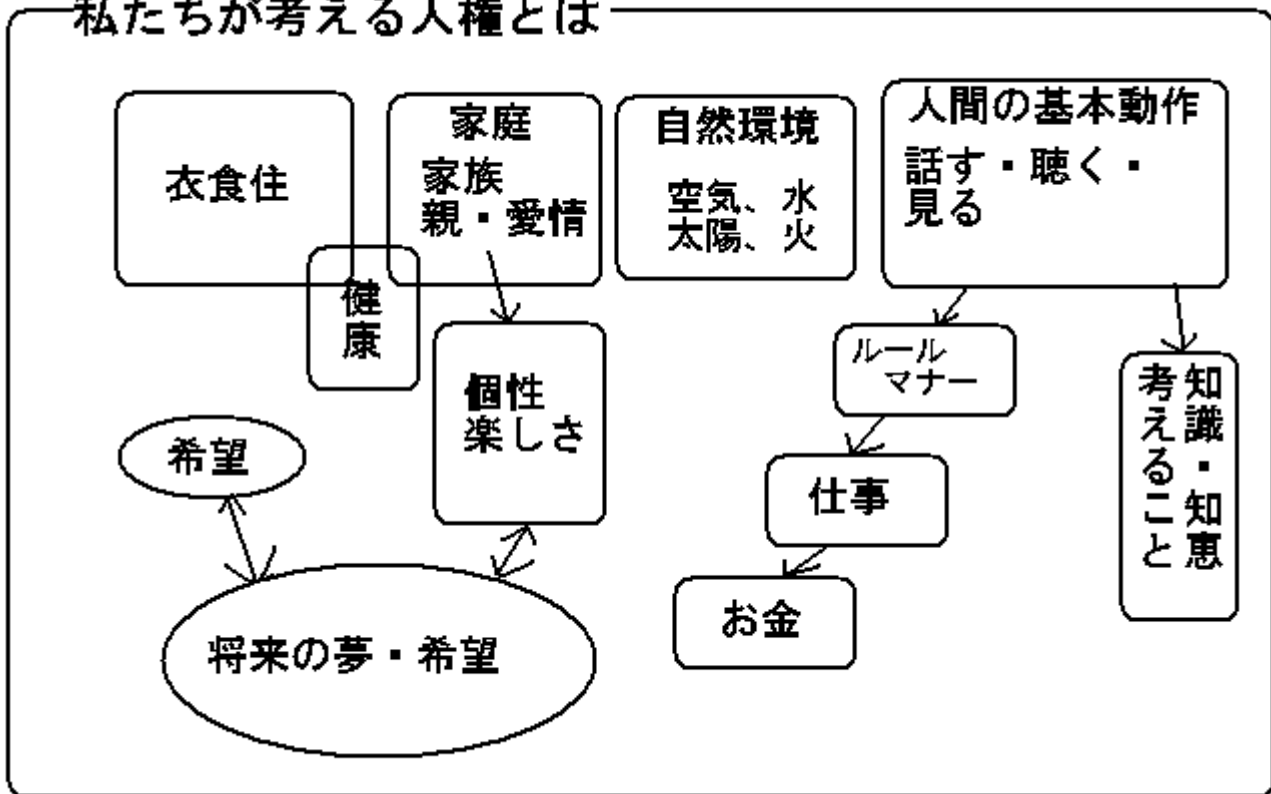
僕は、今回が初の参加でした。メンバー全員がとても明るく、話しやすかったので自分自身の意見を気軽に述べる事ができましたし、楽しい時間を過ごす事ができました。僕たちは「地域交流」という、考えればものすごく広く・深いテーマでしたが、自分の中にない価値観を味わう事ができたので、とても充実した経験になりました。本当にありがとうございました。

野田 雅満 高1

子どもの権利条約 分科会

参加者名 秋定宙夢 近藤レオナ 柴宮史佳 滝花亜理沙 松井奏

私たちが考える人権とは



これらが与えられている状況 → 人権

日本で守られていない条文

第一条 子どもの定義

第三十三条 麻薬・覚せい剤などからの保護

第二条 差別の禁止

第三十五条 ゆうかい、売買からの保護

第十六条 プライバシー・名誉を守る

第十九条 虐待・放任からの保護

第二十三条 障害のある子ども

私たちが注目したのは
第19条 虐待放任からの保護
第23条 障害のある子ども です。

第19条

虐待されている



周りの人に話せない状況にある

知っている人（先生・近所の人・友だちなど）

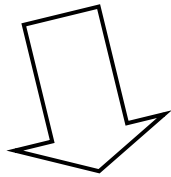
→うわさが広まるのがヤダ

知らない人（コールセンターや相談所など）

→見ず知らずの人に相談したくない

相談するのはその中間がよい

→地域で気にかける必要がある。



第23条

障害のある子に対して

- 差別と偏見がある
- 何を話せばいいのかわからない
- かかわりにくい

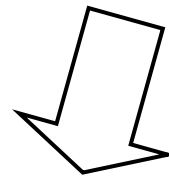


• 情報と経験が少なくどう接していいのかわからない

- その子に一歩が踏み出せない

生まれたときから接すればよい。

そのために地域で出会いを増やす。



地域で出会いを増やし、お互いがお互いを気にかけてあげる。

EX) 地域一帯でイベントをする

子ども会。掃除。

ラジオ体操

バザー

フリーマーケットなど

<改善策>

- 誰にもわからないアンケート
- 悩みを持っている人だけが知っている場所
- 愛情を持つ

☆子ども議員の提言

国際連合、親、地域、文部科学省、政治家のみなさんへ

国際連合の方へ

第0条「すべての子どもに愛情を」

虐待、放任と言った行為を受けていても子どもが話せない状況がある。

地域の人子どもたちに愛情を持って接することが必要である。

障害のある子に対しては物理的には守られているが、接し方など精神的に守られていない。

小さいころから障害のある子と接する機会を設ける。すると愛情を持つことができる。

世界中の人が子どもたちに対して愛情を持つことができれば、子どもの権利条約すべてが守られる。条文の第0条にこれを追加してほしい

親、地域のかたへ

地域のイベント

Ex)子ども会、掃除、ラジオ体操、バザー、フリーマーケット

愛情を持ってもらうために地域の絆を深くする必要があるので、もっと地域のイベントを企画してください。

また、それに参加させてください。(親に対して)

文部科学省の方へ

子どもの権利条約を教育に盛り込んでください。子どもに対する権利を子どもが知らないのはおかしい(第42条)

学校で地域のイベントを企画した時に、先生に真剣に考えさせてください。

政治家の皆さんへ

子どもの声が届きやすい場を提供してください。

EX)目安箱の復活、子ども国会のように社会問題について考える場を全国各地で開催し、1つの意見にまとめて提出させてください。

☆子ども議員の声

〈第23条障害のある子ども〉

問題

- ① 障害のある子どもが差別や偏見に対してどう思っているのか、障害のレベル、どの程度学校生活を送れるのかについて詳しく知らないし、知る機会がない。

～第23条を守るとは～

(物理的に守る)

バリアフリー

スロープなど

(精神的に守る)

差別、偏見、周囲からの行動制限

〈私たちにできること〉

- ・ 障害や、障害の状況について話し合いの場を持つ
- ・ 障害のある子どもの学級、学校の子どもたちと一緒に給食をとる、運動会を一緒にやる
- ・ 交流の際には、子どもたちだけではなく、親も一緒に交流すべき。
- ・ 交流の際には、自分たちから障害のある子に対して積極的に話しかけに行く
- ・ 地域の人とその近くの小学校で協力して、夏祭り・バザーなどのイベントを企画する

〈子どもの権利条約を守っていくためには〉

- ・ 地域社会の活性化。地域一帯でイベントを行って、子どもたちを守っていく意識をみんなで持つ
- ・ 児童会、代表委員会がイベントを企画する
- ・ イベントに特典を付けて子どもの参加を促す
- ・ 子どもはイベントに参加する意思を持つ。その意思に対して親は拒否をしてはいけない。

《おわりに》

以上が、子ども議員による将来への希望の声です。現実の問題を理解し、自分たちに何ができるのか真剣に話し合い出した結果を、力を合わせて活動していきます。この宣言書を読んでくださったあなたが私達の意見に賛同し、活動していただけることを願います。

私達は、大人たちとも協力し活動していくことを誓います。この宣言書を手にとってくださった大人の皆さんに私達の思いが通じ、一緒に様々な問題に取り組んでくださること願っています。

子どもから大人まで全ての人々がともに協力し、世界の貧困問題やから身近な教育問題、環境問題まで多くの課題を解決する社会をつくるため、自分にできることから積極的に活動していきましょう。

子どもの意見が社会に反映されることを願って。

平成22年8月19日 第7回子ども議員一同

